

令和3年度 滋賀県立リハビリテーションセンター研修一覧



詳細はこちら

専門研修(リハビリテーションに関わるすべての職種を対象とした研修)

研修名	主旨	研修テーマおよび講師	対象者	開催日時	申込締め切り	開催場所	定員
① 医師コース ※1、※2	生活への復帰や住み慣れた地域で住み続けられることを支援するのがリハビリテーションの働きです。子どもから高齢者まで疾病や障害をもつ人たちのQOLに資する在宅医療の提供に向けて、多職種との連携や家族との関わりを通じて、主治医の役割について学ぶことを目的とします。	『地域ニーズの変遷に応じた在宅医療の展開～暮らしをメインに地域全体で支える在宅医療の在り方～』 ＜講師＞ ひばりクリニック 院長 高橋 昭彦 氏 本多医院 理事長 本多 朋仁 氏	医師 〔医師以外の方も参加可能です。〕	令和3年 10月3日(日) 14:00～16:30 【受付 13:30～】	令和3年9月24日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	20名
運動器・脊髄損傷コース ※1、※2	高齢化に伴い、転倒による外傷が増加しており、転倒は高齢者の不慮の事故死の要因で第2位、要介護の要因第4位となっています。各医療機関・事業所ではリスクマネジメントの一環として入院中や施設内での転倒予防について研修等が行われています。 在宅高齢者においても、近年フレイルやロコモ等の概念が紹介され、知識として広がっていますが、それとともに、直接的に骨折等のリスクとなる“転倒”への意識づけが必要となってきています。そこで、本研修では高齢者にかかわる支援者が改めて転倒に関するリスクを認識し、所属機関で活用するとともに、在宅高齢者にどう伝えていくか、地域での生活にどのように取り入れてもらえるか考える機会とします。	『転倒予防を考える』 ＜講師＞ 藤田医科大学医学部リハビリテーション医学Ⅰ講座 教授 大高 洋平 氏	高齢者にかかわる全ての職種 (医療・介護・保健・福祉・行政分野の職員)	令和3年 10月30日(土) 13:30～15:30 【受付13:00～】	令和3年10月22日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	50名
難病コース ※1、※2	筋萎縮性側索硬化症(以下、ALS)は筋萎縮・筋力低下を主とした進行性の神経難病とされています。現在も、根本的な治療法は開発されておらず、進行に合わせて歩行障害、構音障害、嚥下障害、呼吸障害など様々な症状に対応する必要があります。また、在宅療養を選択する場合も多く、それを可能とするには様々な職種が関わり、連携を取る必要があります。 本研修では、医療・保健・福祉・介護に携わる支援者が、在宅医療における「ALSという疾患との関わり」、また「リハビリテーション・環境調整」等について学ぶことで、各職種の役割をより活かした支援へ結びつけることを目的に開催します。	『ALSの在宅医療とリハビリテーション』 ＜講師＞ 「ALSという疾患と在宅医療での関わり方」 医療法人赤穂 訪問診療クリニック六花 院長 橋本 司 氏 「在宅医療でのリハビリテーション・環境整備について」 社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業団 横浜市長合リハビリテーションセンター地域支援課 主任(理学療法士) 田治 秀彦 氏	医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、介護職、ケアマネジャー等神経難病患者の支援に携わっている方々	令和3年 10月9日(土) 13:30～16:30 【受付 13:00～】	令和3年10月1日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	50名
摂食嚥下コース	YouTube 滋賀県立リハビリテーションセンターチャンネルにて「京滋摂食嚥下を考える会」と協力して作成した動画を掲載しています。施設・事業所等での研修会や個人のスキルUPのためにご視聴ください。	『摂食嚥下障害の支援を考える』 ＜講師＞ 「食事介助の基礎(障害者編)講義編」 「食事介助の基礎(障害者編)実技編」 済生会守山市病院 摂食嚥下障害看護認定看護師 松永 智人 氏		随時、県立リハビリテーションセンターチャンネル(YouTube)にて配信中	なし	県立リハビリテーションセンターチャンネル(YouTube)	なし
トピックコース ※2	今後、労働人口の減少が予想されており、医療・介護業界もその影響を受けると予想されています。限られた人材で、より質の高いサービスと安全性を提供するためにもロボットの活用が必要となってきています。 本研修では、リハ・介護ロボットって？、ロボットを導入したら何がかわるのか？、導入するにはどうすればいいのか？、導入した後、どう活用していけばいいのか？、それらの疑問を解消し、今後自身の職場でどう活かせるか、その中で自身が果たす役割を考える機会とします。	『リハビリテーション・介護ロボット』 ＜講師＞ 「ロボットの活用と導入前後について」 株式会社シーエフロボタス、NPOロボットビジネス支援機構(Robizy)アドバイザー 株式会社(株) 尾崎 大輔 氏 「県内のロボット普及、介護ロボット導入支援制度について」 県内関係機関より報告予定 「県内のロボット活用事例紹介」 済生会守山市病院、そのほかロボットを活用している事業所より報告予定	医療、保健、介護、福祉、行政などに携わる方、リハ・介護ロボットに関心のある方	令和3年 11月22日(月) 18:00～20:00 【受付17:30～】	令和3年11月12日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	50名
② テーマ別コース 高次脳機能障害コース ＜STEP 1＞ ※2	高次脳機能障害については、症状が外見からわかりにくく、また本人に自覚がないことも多いため「見えない障害」と言われることもあります。そのため支援者や周囲の方にもこの障害に対する理解が必要です。 高次脳機能障害の支援において、適切な知識をもって関わるのが、高次脳機能障害の方の社会適応を高めるという報告もあり、今回の研修では、「高次脳機能障害ってよくわからない。」「高次脳機能障害について理解したい。」といった支援者に対して、基礎理解を高める事を目的とします。(当研修の「高次脳機能障害の基礎理解」は2020年度に当センターが実施した高次脳機能障害コースSTEP1とほぼ同一の内容です。)	『高次脳機能障害の基礎理解』 ＜講師＞ 「高次脳機能障害の基礎理解」 滋賀県立リハビリテーションセンター 所長 川上 寿一 「社会的行動障害の基礎理解とその対応」 滋賀県高次脳機能障害支援センター 相談支援員 小西川 梨紗 氏		令和3年 9月12日(日) 13:30～16:30 【受付 13:00～】	令和3年9月3日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	30名
高次脳機能障害コース ＜STEP 2B＞ ※2	高次脳機能障害については、症状が外見からわかりにくく、また本人に自覚がないことも多いため「見えない障害」と言われることもあります。そのため支援者や周囲の方にもこの障害に対する理解が必要です。 失語、失行、失認、半側空間無視等も学術的な定義において高次脳機能障害として挙げられます。このような症状を持つ方々に対し、生活場面で支障に悩む方を対象に、動画等を用いながら、それらの障害特性に対する理解を深めると共に、実際の関わり方が具体化できるように動画やアセスメントツールを用いながら理解を深めます。(当研修は、2019年度に実施した高次脳機能障害コースSTEP2Bと同一の内容です。)	『生活における高次脳機能障害の捉え方や対応法B』 ＜講師＞ 滋賀県立リハビリテーションセンター 所長 川上 寿一	医師、看護師、ケアマネジャー、介護福祉士、保健師、精神保健福祉士、行政職員、就労支援機関職員、社会福祉士、介護職、学校教員、相談支援事業所職員、医療ソーシャルワーカー、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、柔道整復師、相談支援員等	令和3年 9月26日(日) 9:30～12:30 【受付 9:00～】			20名
高次脳機能障害コース ＜STEP 3＞ ※2	高次脳機能障害のある方の地域社会生活を支える際に様々な方や機関が関わることがあります。その際、支援機関の役割を知っている事は支援される方のこれからを左右する可能性があります。そこで、地域で中心となって支援している様々な方々に支援機関の役割や実際を講演いただき、今後の支援に活かしていくことを目的とします。	『生活を支える社会資源 ～知る事が大きな差を生む～』 ＜講師＞ 「滋賀県における高次脳機能障害の現状と滋賀県高次脳機能障害支援センターの支援」 滋賀県高次脳機能障害支援センター 相談支援員 田邊 陽子 氏 〔仮〕「豊郷病院回復期での取り組み」 公益財団法人 豊郷病院 リハビリテーション科 作業療法士 日下部 洋平 氏 「むれやま荘の機能と役割 ～高次脳機能障害への支援～」 滋賀県立むれやま荘 所長 宮川 和彦 氏 〔仮〕「滋養障害者職業センターでの高次脳機能障害者への支援」 滋養障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 山口 久尚 氏 〔仮〕「高次脳機能障害者の会」での支援 一般社団法人なないろ 代表理事 高次脳機能障害者の会が 岡本 穂子 氏 「働き・暮らし応援センターにおける高次脳機能障害者の支援状況について」 働き・暮らし応援センター支援センター長 森本 義彦 氏		令和3年 9月26日(日) 13:30～16:50 【受付13:00～】	令和3年9月17日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	30名
高次脳機能障害コース ＜医師・リハセラピスト研修＞ ※1、※2	高次脳機能障害は受傷、発症時には気づかないことが、在宅や社会生活で症状として出ることが多く、また、障害特性も幅広く、症状の出方も様々なため、日常・社会生活に支障を及ぼすことも少なくありません。そこで今回は社会的行動障害の中の脱抑制に着目し、①脳機能から症状について、②脱抑制と依存のつながり、依存と社会と文化の関係性について、③抑制機能を発達過程と文化から紐解いた社会性・社会脳について、④脱抑制と日常生活・社会生活困難について学び、日々、高次脳機能障害者はじめ、人と関わる支援者が抑制についての脳の機能を学ぶことにより、原因と脳機能、発達と生活を結び付けて考えるきっかけとなり、多様性の理解と支援の気づきにつながる事を目的とします。	『抑制機能に対する理解と考え方』 ＜講師＞ 「抑制機能の脳機能について」 京都大学大学院医学研究科 精神医学教室 教授 村井 俊敏 氏 「実行機能の発達と文化」 京都大学大学院文学研究科 准教授 森口 佑介 氏 〔仮〕「日常生活・社会生活困難の考え方」 滋賀県立リハビリテーションセンター 所長 川上 寿一 ワークショップ 〔仮〕「事例から高次脳機能障害の支援について考える」		令和3年 11月7日(日) 13:00～17:00 【受付 12:30～】	令和3年10月29日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	20名

(お問い合わせ) 滋賀県立リハビリテーションセンター 電話: 077-582-8157 FAX: 077-582-5726 E-Mail: eg3001@pref.shiga.lg.jp HP: http://www.pref.shiga.lg.jp/rehabili/

※1: 日本医師会生涯教育制度単位申請予定 ※2: 日本作業療法士協会生涯教育制度基礎コースポイント申請予定

● お申し込みは、滋賀県立リハビリテーションセンターホームページ、もしくは研修会案内冊子のURL,QRコードからお申し込みください。(参加料は無料です。)



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用  
グリーン購入法適合品を使用しています。